

子宮頸がん征圧をめざす
専門家会議

Annual Report 2016

CONTENTS

| | |
|-------------|---|
| 2016年度 総括 | 1 |
| 2016年度 活動一覧 | 2 |
| 提言、調査 | 3 |
| セミナー、啓発 | 4 |
| 啓発物配布と情報提供 | 6 |

2016年度(2016年1月～12月) 総括

子宮頸がん征圧をめざす専門家会議(以下当会議)は2008年11月設立以来、子宮頸がん検診とHPVワクチンの普及を目標に掲げ活動を展開している。

【目標】 *2012年度より変更

1. より精度が高く費用対効果にすぐれた子宮頸がん検診(細胞診+HPV検査)を確立し、子宮頸がん検診受診率50%以上をめざします。
2. HPVワクチンの公費負担年齢における接種率向上と、キャッチアップ世代へのHPVワクチン接種を推進します。

2009年はHPVワクチンの正式承認を獲得し、2010年は子宮頸がん検診受診率向上、HPVワクチン公費負担の実現に向けて、他の啓発団体と連携しながら政府への提言を活発に行った。また2010年から、世界最大の子宮頸がん学会と啓発を推進する国際会議のフォーラムに啓発団体などを派遣する「EUROGIN & WACC Forum参加・取材ツアー」を実施した(2013年まで)。

HPVワクチンの公費負担が実現した2011年は、HPVワクチンについての理解を深めていただくため、セミナーやウェブや新聞広告などを通して正しい情報提供に努めた。また、継続審議になっている子宮頸がん予防法案の実現に向けての提言や、企業との連携キャンペーンにも注力した。子宮頸がん予防活動奨励賞を創設し、募集を行った。

2012年は、子宮頸がん予防活動奨励賞の表彰式を実施、要望書による提言活動、第5回目の自治体アンケート調査、自治体・議員向けセミナーにより成功事例を広める活動を展開。一般公募ポスターによる若い女性への啓発、養護教諭を通じた保護者へのよびかけ、医療者と啓発団体との交流の機会となる日本版WACCの初開催のほか、啓発資材や情報を活用しやすくするためホームページをリニューアルした。併用検診の医療経済についての検討も開始した。

2013年は、これまでの活動を継続するとともに、HPVワクチンの意義、効果、安全性を伝えるためのセミナー開催やウェブサイトの作成を行った。6月に厚労省のHPVワクチン接種の積極的勧奨の一時差し控えを受けて、HPVワクチン接種を継続すべきか悩む人へのアドバイスや、HPVワクチンに関する世界の報告を日本語版で紹介するなど、科学的に正しい情報提供に努めた。また第6回目の自治体アンケート調査も行った。

2014年は、WHOステートメントやフランス当局の声明を紹介する一方、国内外の専門家による国際シンポジウムやセミナーを開催し、HPVワクチンの有用性、安全性についての正しい情報提供に努めた。また、一般市民のHPVワクチンへの不安や誤解の解消のため、子宮頸がんの正しい知識を伝える啓発冊子を作成し、提供を開始。ザビエル・ボッシュ先生によるEラーニングの日本語版作成への準備も開始した。第7回目の自治体アンケート調査も実施した。

2015年も、子宮頸がん予防活動奨励賞の募集および表彰式を開催。HPVワクチン接種再開の要望をとりまとめ、これらに関する適切な報道をメディアに働きかけた。また、メディアラウンドテーブルを開催し、HPVワクチンの正しい理解とその報道についてのディスカッションを行った。これまでも継続活動している幼稚園や保育園を対象にしている母の日キャンペーンでの母の日カードの配布、Eラーニングの日本語版作成に向けての作業、第7回目の自治体アンケート調査集計結果の発表、第8回の自治体アンケート調査を実施した。

2016年度は、メディアに対して問題解決のための真の理解を促し、より良い予防医療を目指すための課題に理解を深めることを目指し、メディアセミナーを開催。また、子宮頸がん予防活動奨励賞の募集および表彰式を開催。母の日キャンペーンで母の日カードを配布、E-oncologiaの日本語翻訳作業を実施した。また第8回自治体アンケート調査集計結果の発表、第9回自治体アンケート用紙の見直しおよび調査を実施した。

2016年度 活動一覧

| | | |
|--------|---------------------------------|---|
| 1月～ | E-oncologia翻訳プロジェクト | E-oncologiaの教材確認および日本語翻訳に向けての打ち合わせおよび翻訳作業を実施。 |
| 4月5月 | 「子宮頸がん検診よびかけ母の日キャンペーン」 | 私立幼稚園・保育園などを対象に母の日に渡すメッセージカード(母の日カード)の配布キャンペーンを実施。都内の幼稚園および保育園に約5100枚送付。 |
| 4月21日 | メディアセミナー開催 | 「子宮頸がんワクチンに関する正し理解のために～報道が伝えたこと、私達が伝えたいこと～」と題し、米国アルベルト・アインシュタイン医科大学 疫学/公衆衛生学部教授のフィリップ・キャッスル先生を招き、メディアに対して問題解決のための真の理解を促し、より良い予防医療を目指すための課題に理解を深めることを目指し開催。メディア15名が参加。 |
| 6月2日 | 第5回子宮頸がん予防活動奨励賞 表彰式 | 子宮頸がん予防で成果をあげた活動を行った自治体、企業、啓発団体、個人、メディアに対して奨励賞を2011年より創設。第5回目の受賞者の募集および表彰(受賞者2組)を実施。 |
| 6月 | 自治体アンケート調査(2015年度実施) 集計結果発表 | 2015年度に全国の自治体に対して実施した、子宮頸がん検診受診率、子宮頸がん予防ワクチン接種率等のアンケート調査の集計結果を発表。 |
| 8月29日 | 厚生省健康局長面談および記者クラブ投げ込み | HPVワクチン接種再開を要望し、EUROGIN2016に参加した世界50か国以上341名の研究者からの署名を厚生労働省健康局長に手渡した。また、これに関しての適切は報道を報道機関に依頼する内容を記者クラブに投げ込み。 |
| 11月12月 | 2016年度自治体アンケート調査実施 | 子宮頸がん検診受診率、子宮頸がん予防ワクチン接種率等を全国の自治体に対してのアンケート調査実施。 |
| 12月 | 子宮頸がん検診、子宮頸がん予防ワクチンに関する情報・意見交換会 | 子宮頸がん検診および子宮頸がん予防ワクチンの状況に関する現在の状況や情報、今後の課題等の意見を製薬会社と交換した。 |
| 通年 | 啓発物の配布、提供 | 子宮頸がん予防ワクチンの有用性に関する一般説明用の素材(小冊子4件)や医療者向けのスライド(8件)や一般向けのポスター(1件)を依頼に応じて提供した。 |
| 通年 | プレスへの情報提供、取材・監修協力 | メディア、企業、団体等の依頼に応じて取材・監修等の協力。 |
| 通年 | Webサイト・携帯サイトによる情報提供 | 医療者・自治体担当者・一般向けに子宮頸がんに関する最新情報を随時提供。 |
| 通年 | 議員や自治体等への情報提供 | 議員への面会、情報提供を随時提供。 |
| 通年 | 後援依頼への協力 | NPO法人ラサーナ主催の子宮頸がん予防啓発「高崎美スタイルマラソン2016」に後援した。 |

1. 提言

厚生労働省健康局長へ子宮頸がん予防ワクチン接種再開を要望の署名提出

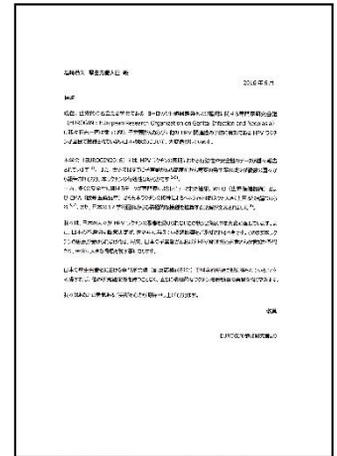
HPVワクチン接種再開を要望し、EUROGIN2016に参加した世界50か国以上341名の研究者からの署名を厚生労働省健康局長に手渡した。また、これに関しての報道を依頼する内容を厚労省記者クラブに投げ込みした。

■日時:2016年8月29日(月)

■活動委員…実行委員長:今野 良

顧問:高久史磨

委員:木下勝之、宮崎亮一郎、近藤一成



2. 調査

第9回 自治体アンケート調査実施

平成27年度の「子宮頸がん検診受診状況および子宮頸がん予防ワクチン公費助成接種状況」について全国の自治体に向けアンケート調査を実施した。

■調査期間:2016年11月~2017年2月(予定)

■調査対象:全国1743自治体

■監修…実行委員長:今野 良、実行委員:鈴木光明

3. セミナー、啓発

メディアセミナー開催

「子宮頸がんワクチンに関する正しい理解のために～報道が伝えたこと、私達が伝えたいこと～」と題し、米国アルベルト・アインシュタイン医科大学 疫学／公衆衛生学部教授のフィリップ・キヤッスル先生を招き、メディアに対して問題解決のための真の理解を促し、より良い予防医療を目指すための課題に理解を深めることを目指し開催。メディア15名が参加。

- 日時: 2016年4月21日(木) 13:00～16:00
- 会場: TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター(東京・有楽町)
- 活動委員・・・議長: 野田起一郎、実行委員長: 今野良



第5回 子宮頸がん予防活動奨励賞 表彰式

子宮頸がん予防に取り組み、成果をあげた団体・個人を表彰、その成功のポイントを広く公開し、今後の啓発活動に活用してもらうため、2011年に『子宮頸がん予防活動奨励賞』を創設。第4回奨励賞の表彰式を開催。2団体が受賞した。実行委員長の今野良による講演も実施した。

- 日時: 2016年6月2日(木) 15:30～18:00
- 会場: 東京国際フォーラム(東京・有楽町)
- 活動委員・・・議長: 野田起一郎、実行委員長: 今野良
実行委員: 宇田川康博、鈴木光明、委員: 中板育美



第8回 自治体アンケート調査集計結果発表(2015年度実施)

2015年度実施の第8回「子宮頸がん検診受診状況」及び「子宮頸がん予防ワクチン公費助成接種状況」について全国の自治体にアンケート調査を実施した集計結果の発表をした。

- 日時: 2016年6月2日(木)
- 会場: 東京国際フォーラム(東京・有楽町)
- 活動委員…実行委員長: 今野 良



E-oncologia翻訳プロジェクト

E-oncologiaの教材の確認および日本語翻訳に向けての打ち合わせおよび翻訳および最終調整作業を実施した。

- 活動委員…議長: 野田起一郎、実行委員長: 今野良

「子宮頸がん検診およびHPVワクチン情報・意見交換会」実施

子宮頸がん検診およびHPVワクチンに関して現在の状況と今後について、当会議、議長、実行委員長、実行委員、委員と製薬会社と情報および意見交換を行った。

- 日時: 2016年12月8日(木)
- 会場: 東京国際フォーラム(東京・有楽町)
- 活動委員…議長: 野田起一郎、実行委員 委員

「子宮頸がん検診よびかけ母の日キャンペーン」実施

2010年より毎年母の日の頃に実施。幼稚園や保育園などに、母の日に子どもから大好きなお母さんに渡す母の日カードの配布するキャンペーン。母の日カードには子宮頸がん検診よびかけのメッセージをつけている。都内6幼稚園、約5,100枚配布した。

- 4月・5月
- カード/イラスト:藤本四郎
- 監修協力...実行委員長 今野良



啓発冊子「あなたに知ってもらいたい 子宮頸がんのこと」配布

HPVワクチンの有用性に関する一般説明用の素材を配布する。ウェブサイトで紹介し、広く活用を呼かけている。現在は、依頼のあった医療者、啓発団体・個人に配布しており、患者さんや一般への啓発に活用されている。2016年度は4件の依頼があり、約200枚を配布。

■ 通年配布

啓発物 ポスターの配布

子宮頸がん検診受診の促進とHPVワクチンの接種に関するポスターの配布。ウェブサイトで紹介し、広く活用を呼んでいる。

現在は、依頼のあった医療者、啓発団体・個人に配布しており、患者さんや一般への啓発に活用されている。

2016年度は1件の依頼があり、約4枚配布。

■ 通年配布

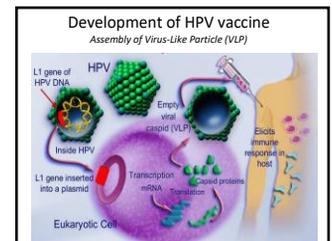
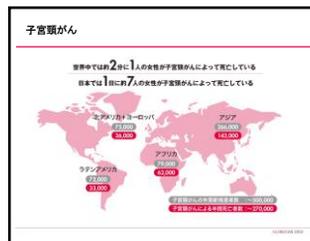


医療者向け子宮頸がん予防説明用スライドの提供

子宮頸がん予防についての情報をまとめたパワーポイント資料。医療者に講習会などの説明資料としてウェブサイトで紹介し、データをダウンロードし活用できるよう提供している。

2016年度は8件の依頼があった。

■ 通年配布



医療専門家向け情報提供DVDの提供

子宮頸がんの精度の高い併用検診について、わかりやすくまとめている。医療専門家に講習会などの資料として活用できるようウェブサイトで紹介し、提供している。2016年度は1件の依頼があった。

■ 通年配布

